



多賀城の西を画する材木塀

④ 特別史跡多賀城跡附寺跡（多賀城市市川）



▲調査区の位置と材木塀

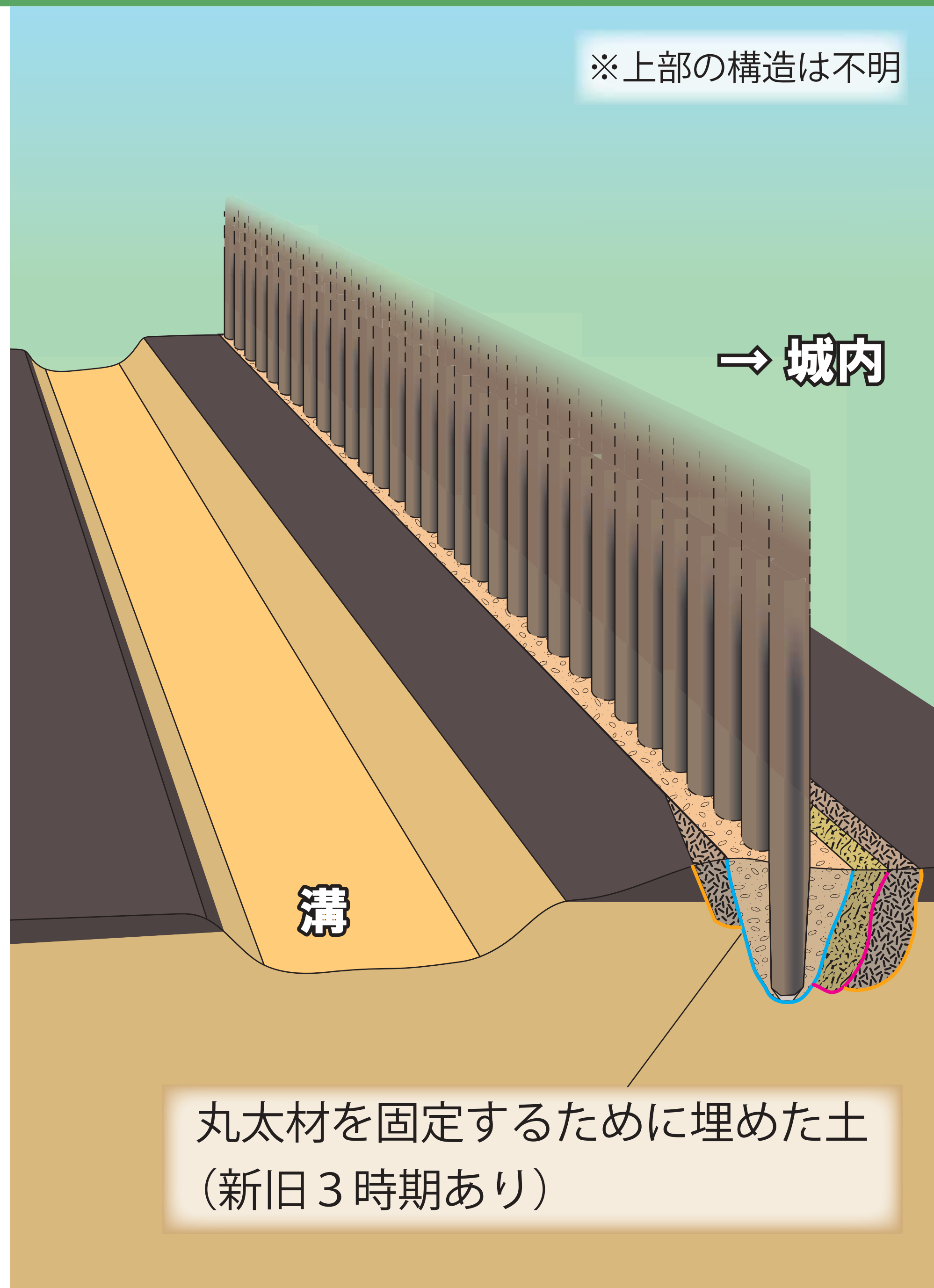
多賀城市北部の丘陵と低地部に造られた、奈良・平安時代の陸奥国府です。奈良時代には軍事を担う鎮守府も置かれ、東北地方の行政・軍事の中心的施設でした。

昭和 44 年以降、多賀城跡調査研究所により発掘調査が行われています。

多賀城の周囲には約 0.6 ～ 1 km 四方にわたって塀が巡っており、今年度はその北西部分を調査しました。その結果、西北隅に設置された門（西北門）の南側の低地で、材木を密に立て並べた塀（材木塀）を約 9 m 分確認しました。過去の調査とあわせ、西北門の南側では南北に 250m 以上、材木塀がのびることがわかりました。

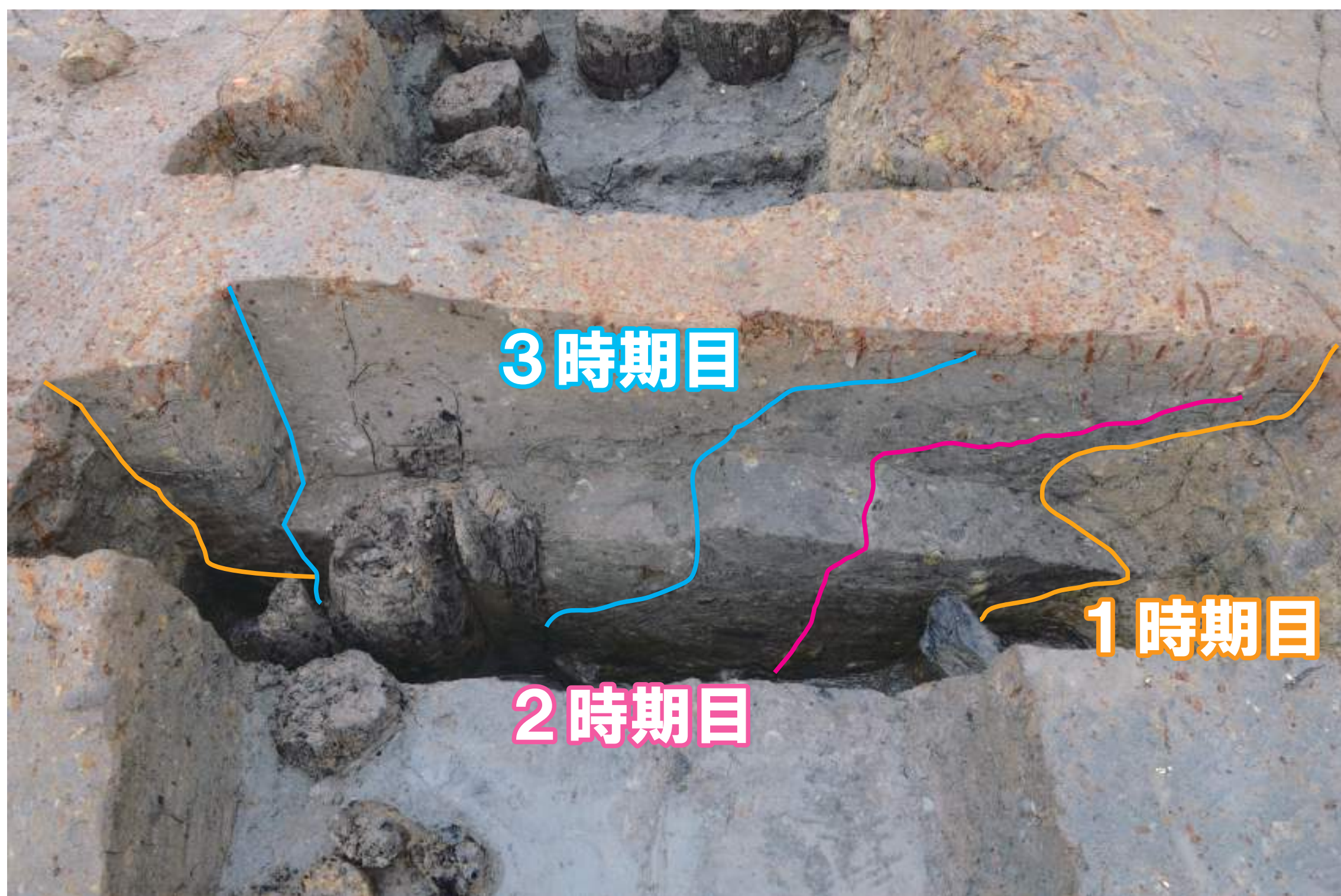


▲材木堀（南から）



▲材木堀のイメージ図

材木堀は直径約 20cm の丸太材を密接に立て並べてつくられていました。丸太材は最も長いもので 60cm 以上残っていましたが、地上部分は本来 3～4m ほどの高さがあったとみられます。断面の観察から、材木堀は 3 時期の変遷（^{へん}^{せん}）があったことがわかりました。材の地中に埋まった部分が腐った際には、これを切り取って新たな丸太材を据え直し、長期間にわたり堀を維持したと考えられます。



▲材木堀の断面（南から）

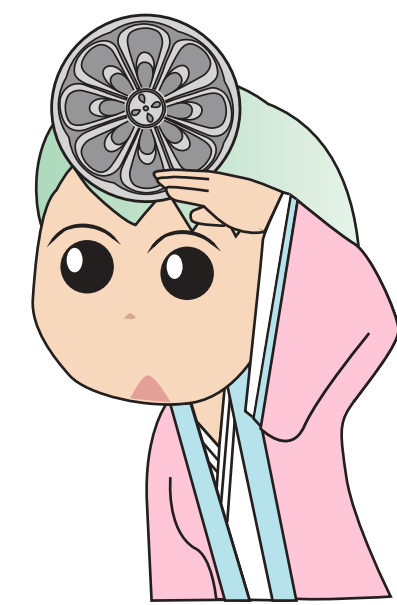
Rengemon Chat



ちようさいんさん

どうして材木堀の高さを推定できるの？

秋田県大仙市にある平安時代の城柵（^{だいせん}^し 中央政府が地方支配の拠点として設置した政治・軍事施設）、^{じょうさく} 弘田柵跡の例が参考になります。弘田柵跡では材木堀の角材が木道に転用されており、両端が残った状態で長さが 4.6m ありました。



れんげもんちゃん

協力：多賀城跡調査研究所